

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目	物 理
----	-----

総 括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

昨年と同様、問題Ⅰが力学、Ⅱが電磁気学、Ⅲが熱力学分野からの出題であった。近年、分量過多の状態が続いていたが、今年もその傾向が踏襲された。全体として問題文がかなり長く、読解力や計算力も要求された。また、導出過程を書くべき設問も増えたため、時間内にすべての問題に取り組むのは困難だっただろう。内容としては、3 題とも「高校物理」らしい設定の問題だった。

〈特記事項・トピックス〉

今年も近似計算が問われた。また、すべての大問でグラフや軌道を描く問題が出題された。

〈合格への学習対策〉

広い分野にわたって基本的な物理的思考方を問おう、というのが京大物理の出題姿勢である。単なる知識に頼るのではなく、問題文から読み取った内容を自分の力でどこまで考えることが出来るかが勝負になる。普段から「考えることを大事にした勉強」を心がけたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範 囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
Ⅰ	空所補充 選択 論述 描図	力学 電磁気学	等加速度運動 保存則の活用 円運動 ローレンツ力 直線上の衝突	高校物理で頻出の素材を多数組み合わせた総合問題になっている。ひとつひとつの設問は決して難しくはないが、運動量保存則と力学的エネルギー保存則の連立を何度もさせられるため、計算に時間がかかったことだろう。換算質量を用いた計算手法を身につけていた受験生は、手早く計算できたかもしれない。各物体の質量の違いや速度の向きの変化など、細部に注意を要する。	標準
Ⅱ	空所補充 選択 描図	電磁気学	電流が磁場から受ける力 電流のつくる磁場 剛体のつりあい 円運動 単振り子 電磁誘導 交流	ターンテーブル上の導体に電流を流し、磁場から受ける力によるさまざまな運動について考えていく。空所の個数が非常に多いが、計算量は案外少ない。(3)では導体の一部が、電流が磁場から受ける力を復元力とした単振り子のような運動をする。単に周期の公式を覚えるだけでなく、近似を含めた導出過程を理解しているかが問われた。また、(4)では電磁誘導が生じるが、誘導起電力の正の向きや符号に注意すること。	やや難
Ⅲ	空所補充 選択 論述 描図	熱力学	液体から受ける圧力 理想気体の状態変化 ボアソンの法則 熱サイクル	可動壁によって封入された理想気体の状態変化について考える。(2)以降、ストッパーに挟まれた可動壁や封入された気体がどのような振る舞いをするかを考える点が難しい。状況を正確に把握するにも、計算を実行するにも、相当の時間がかかったことだろう。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。